第67号 2018年（平成30年）10月8日発行　発行者：筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 © 菅平高原実験所

菅平生き物通信

ホームページ http://www.sugadaira.tsukuba.ac.jp 電子メール ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp 電話 0268-74-2002 Fax 0268-74-2016

クマと危険遭遇しないように

写真2　2016年7月16日、罠にかかった雄グマ

昆虫を専門にしている私がクマについて書くことをお許しください。菅平高原に住まわせてもらって40年以上になりますが、ずっとクマを（※安全な状況で）見たいと思いつつ、残念なことにそのような機会はこれまでありませんでした。ところがどうしたことか、2015年から、毎年クマを見ることになりました。

2015年夏、居を構えている十ノ原別荘地にて、ネコが騒ぐので目を向けると、敷地の隣のササ原をクマが小走りに突き進んでいた。また、100mくらい先にクマが散歩する様子を目撃。2016年6月、菅平口から上った国道406号線沿いのサクラの実が食害され、ほとんどのサクラの樹に熊棚（くまだな）（実などを食べるとき、折った枝を手前に手繰り寄せて一ヶ所に棚状に積み重ねる、写真1）。同年7月16日、同別荘地にて、猟友会の方が仕掛けた罠に体長75cmの雄グマ（写真2）がかかる。2017年6月27日、午後9時30分、同別荘地の林道を車で走行中、カーブを曲がると目の前に二匹の子グマをつれた母グマと遭遇、母グマは子グマを守ろうと車に突進、再接近時の母グマとの距離は数10cm、危うく難を逃れる。2018年6月18日、午前5時、国道406号線沿いにある「上田建設事務所（菅ちゃん・平ちゃんの建物）」の広場脇のサクラにクマが登ってサクランボを採食（写真3）。これらのクマとの遭遇は、偶然を超えての高い確率に思われました。

写真1　2016年6月、熊棚（写真上は拡大）

写真3　2018年6月18日、サクラに登ってサクランボを食べている

そこで、恐ろしさからクマのことを少しは知っておかないとと、「米田一彦（2017年）クマが人を襲うとき．つり人社」、「羽根田治（2017年）人を襲うクマ．山と渓谷社」など最近良い本が出版されているので、読んでみました。それらによると、これまでは山の荒廃や里山の減少などで餌を求めて人の生活域にクマが現われるようになり、人とクマとの遭遇事案が増えてきたとしばしばいわれていましたが、近年確実にクマは個体数を増やしているというのです。

では、どのように注意すべきでしょうか。まず、一人で山に入ったら危ない、複数人で入っていれば話し声がするし何かの時には助けあうことができます。熊鈴は携行するようにする。低い音のものはあまり利かず、リンリンと高い音のものがいいそうです。しかし、鈴をつけていれば安心と思っても、座ったり止まったりしたら音がしませんから要注意。大声を出したり歌ったりするのもいいでしょう。また、熊避けスプレーは効果覿面（こうかてきめん）らし↙いです。

また、最近、サイクリングやトレイルランでの遭遇事案が多いそうです。クマが気づいて対処しようと思ったとしても、クマが予想している以上に早く、自転車や人が来てしまうことによるのではないかと書かれていました。なるほどと思いました。先ほど書いた子連れグマとの遭遇、母グマは音やヘッドライトでとうに車の接近に気づいていたはず、どう考えても不思議でした。母グマはとっくに気づいていた、そして子グマたちをどのように逃がそうか、どのように隠れようかと思案していたら、思いのほか敵（車）は速かった、きっとそういうことだったのです。

クマとの遭遇事故はクマと人が共に山菜を漁る5月と、キノコや木の実を求める10月に多発するそうです。そして、長野県は岩手県、秋田県についで遭遇事故が多いそうです。これからの季節、十分に気をつけましょう。鈴やラジオ、大声など、音を出せばずっといいと思いますが、「新世代グマ」というのも増えてきたそうです。人との接近が普通になってきた「新世代」（新たなジェネレーション）のクマたちは、人の出す音や人の存在をあまり恐れなくなってきているというのです。十二分な注意や対策をしてクマとの遭遇事故を避けられるようにと思います。

（町田　龍一郎）

※クマ…ツキノワグマ。日本には、本州と四国（九州は絶滅したといわれる）に住むツキノワグマと、北海道に住むヒグマの二種類が生息しています。

催し物案内

自然観察会「紅葉の林を歩いて大明神滝へ」

秋の草原や森の中を散策しながら、通常非公開の大明神の滝までを歩く自然観察会です。

日時：平成30年10月20日（土）9時30分～12時（9時受付開始）
場所：筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所
定員：30名（先着）
参加費：無料（別途保険代50円）
服装等：長袖・長ズボン・歩きやすい靴・帽子・防寒着・雨具
その他：悪天候の場合は中止のご連絡をします。
申込方法：10月9日（火）～12日（金）の期間に、電子メールまたはFAX
＊参加者全員の氏名と住所、代表者の電話番号・FAX番号・電子メールアドレスをご記入ください。
＊定員になり次第締め切ります。
お問合せ・お申込：筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所（担当　山中）
電話：0268-74-2002（平日9～17時）
FAX：0268-74-2016
電子メール：ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp

意外と知らない!? セミのお話

皆さま、はじめまして。筑波大学生物学類4年の湯本景将です。今回は、私の好きな生き物であり、研究対象でもある「セミ」に関する雑学について紹介したいと思います。

1. セミは意外と長生き!?

セミは儚い生涯を象徴する生き物であるように言われていますが、実際は昆虫の中でも長生きする生き物です。セミの成虫の寿命は1週間ほどであるとよく耳にしますが、実際は1か月程度生きることができるそうです。また、幼虫として地中で複数年かけて成長することが分かっています。つまり、成虫と幼虫期間を合わせると、セミの寿命は数年ということになります。

世界で最も長生きするセミとして知られているのが、北米東部に分布している周期ゼミと呼ばれる種です。このセミは17年もしくは13年という長い幼虫期間を経て、成虫になります。

2. 抜け殻で種類・性別を見分けることができる

木の幹や葉の裏だけでなく、看板などの人工物や自転車のタイヤの上など、さまざまな場所でセミの抜け殻を目にする機会があるかと思います。実は、その抜け殻をみるだけで、種類や性別を判断することができます。判断材料となるのは、抜け殻の大きさ、色艶、触角、おしりの部分などです。

種類を見分けるポイントはセミによって異なります。例えば、アブラゼミとミンミンゼミの抜け殻（写真1）では、両者は大きさや色艶はほとんど変わりませんが、触角に違いがみられます。触角の付け根から3番目の節をみたときに、この長さが2番目の節の1.5倍の長さであるときはアブラゼミ、ほぼ同じ長さであるときはミンミンゼミです。また、アブラゼミの触角は全体的に太くて毛が多いですが、ミンミンゼミの触角は細く毛が少ないことも特徴です。

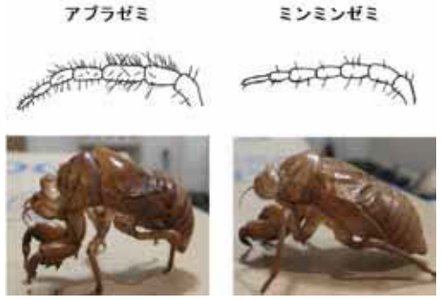

写真1　アブラゼミ（左）とミンミンゼミ（右）の抜け殻。イラストはそれぞれの触角

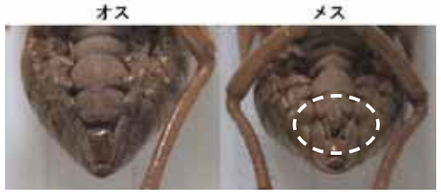

写真2　性別の見分け方。メスには産卵管のもととなる部分がある（囲ってある部分）

性別の見分け方（写真2）はすべてのセミで共通で、おしりの部分で見分けます。抜け殻の腹側の先端部分をみて、産卵管がないのがオス、あるのがメスです。

3. 成虫の生死の見分け方

セミが道端や玄関の軒下などで裏返って死んでいると思い、近づいたらいきなり暴れ出して驚いたという経験をお持ちの方はいると思います。いわゆるセミ爆弾と呼ばれるトラップですが、実はそのセミの脚に着目することで生死を見分けることができます。脚が開いている場合は生きている確率が高く、閉じている場合は死んでいる確率が高いです。

ここまで、簡単にご紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか？セミは日本の夏の風物詩的な存在で、日本人にとってなじみのある身近な昆虫ですが、まだまだ分からないことだらけで謎が多いです。私はその謎を少しでも解明していけたらと思い、日々研究に励んでいます。

（湯本　景将）

本通信の印刷・配布は、東郷堂さんにご協力いただいています。

次号は12月発行予定です

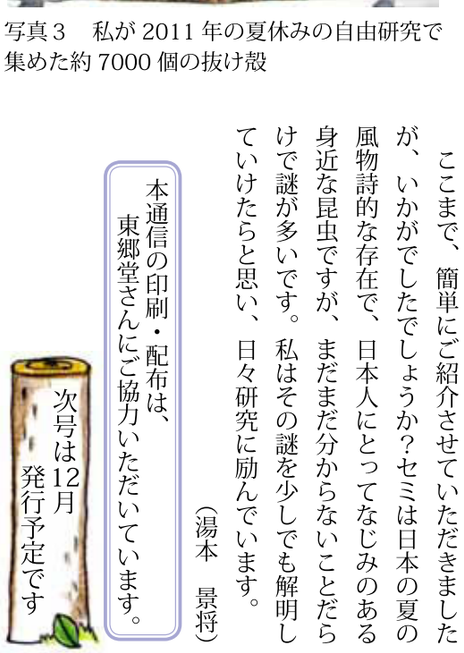

写真3　私が2011年の夏休みの自由研究で集めた約7000個の抜け殻